

人口の維持に向けた重点プロジェクト

～ 人口動態について～


重点プロジェクト



長期総合計画の基本構想において掲げた将来の目標人口である6万人維持にむけ3つの観点から重点プロジェクトを設定しています。


① まち全体で子どもを育む (出生数の改善)

合計特殊出生率を改善するとともに、ファミリー層の転入促進を通じて出産を希望する人口を増やし、**出生数の改善を図る**ことで、人口の減少速度を緩やかにし、目標人口の達成を目指すものとします。

安心できる出産・子育て
経済的負担軽減 
インナープロモーション


② まちの魅力をみがき伝える (ファミリー層の転入促進)

ファミリー層からの橋本市に対する評価は、特に子育て支援において高くなっています。**ファミリー層のさらなる転入促進を図る**ことで、人口の減少速度を緩やかにし、目標人口の達成を目指すものとします。

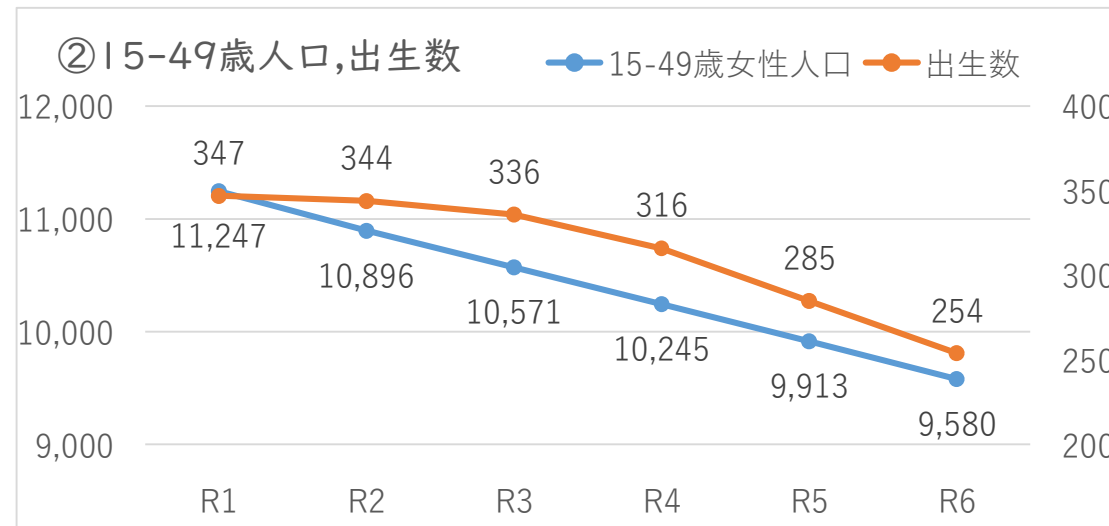
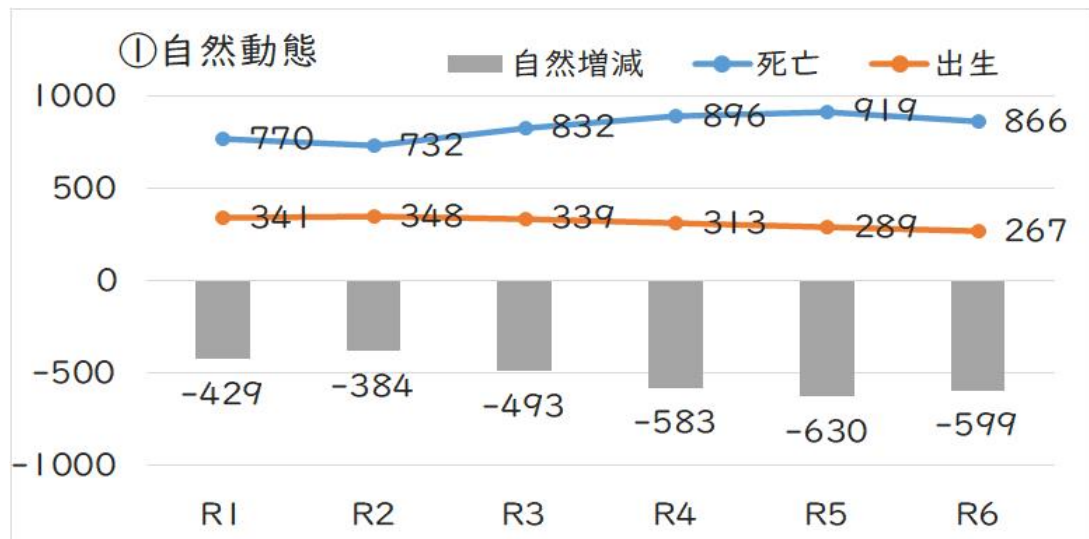
子育て環境
遊び・居場所 
アウトタープロモーション

③ 住み続けられるまちをつくる (転出超過の抑制)

進学や就職を機とした市外転出は避けられないと予想されますが、市内の住みやすさ、働きやすさの向上を図り、**市外に流出する人口の減少速度を緩やかにする**ことで、目標人口の達成を目指すものとします。

住みやすさ
働きやすさ
産業の稼ぐ力
愛着・定住 

重点プロジェクト事業（人口-自然動態）

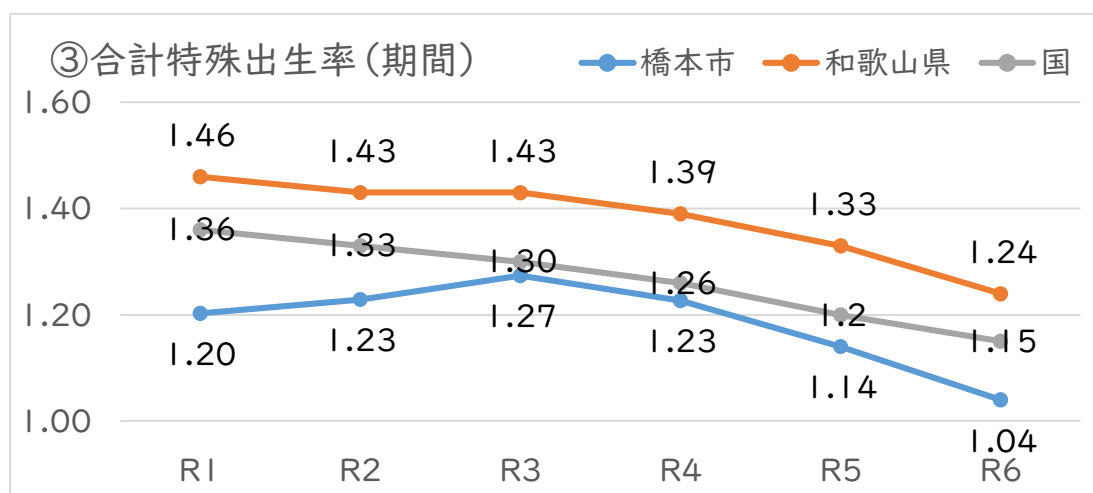


①自然動態

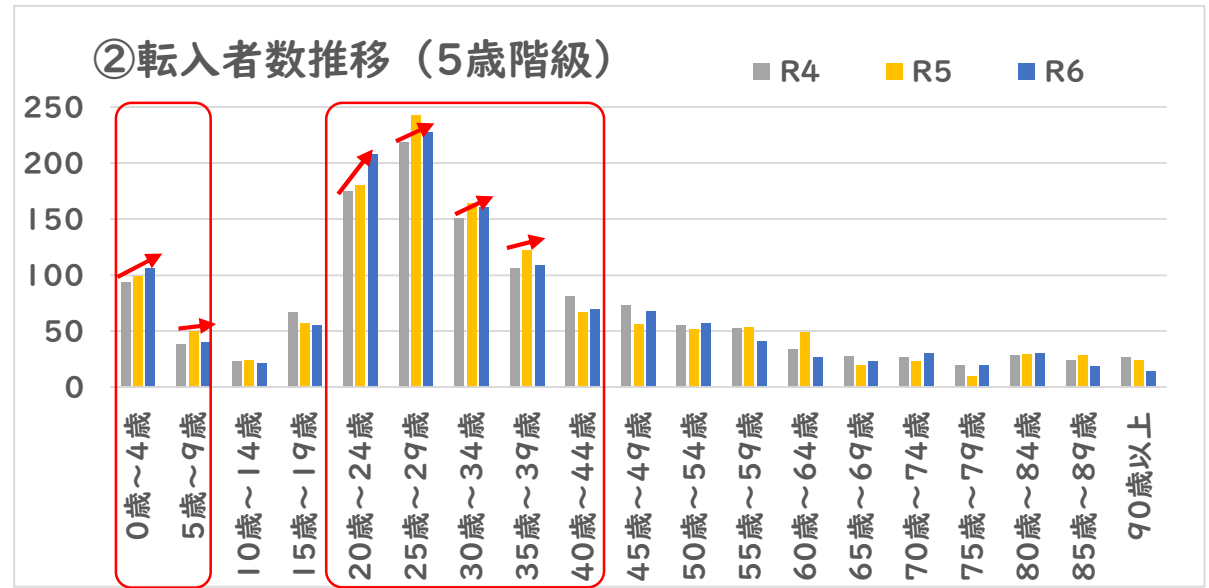
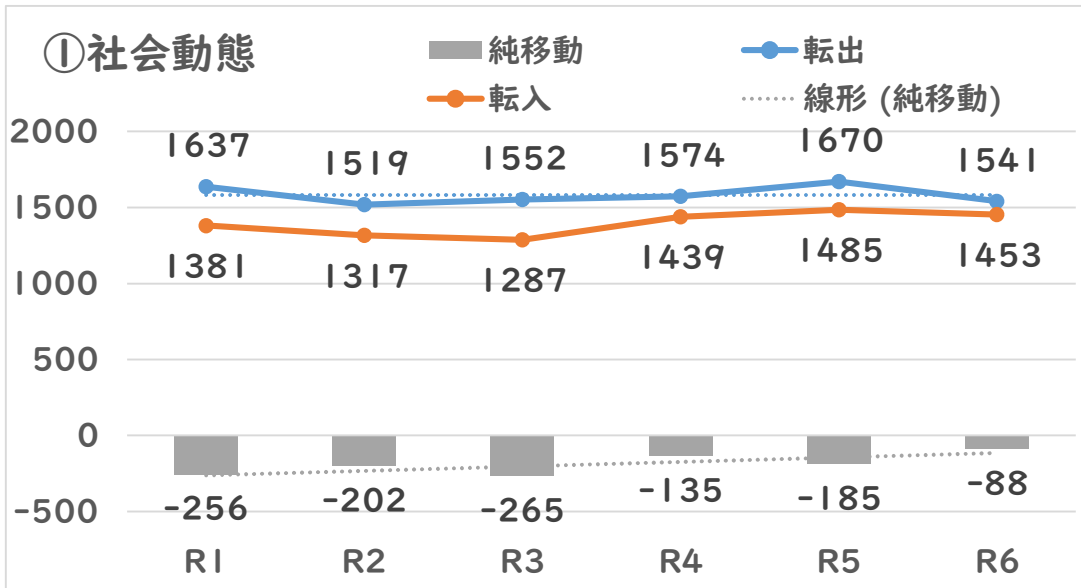
死亡者は増加傾向で近年800人以上、出生数は減少傾向であり、300人未満となっている。R6年度末では約600人が自然動態により減少しています。

■出生、合計特殊出生率

出生数は減少が続き、15-49歳女性人口も減少しています。期間合計特殊出生率がR6年度で1.04%となっています。



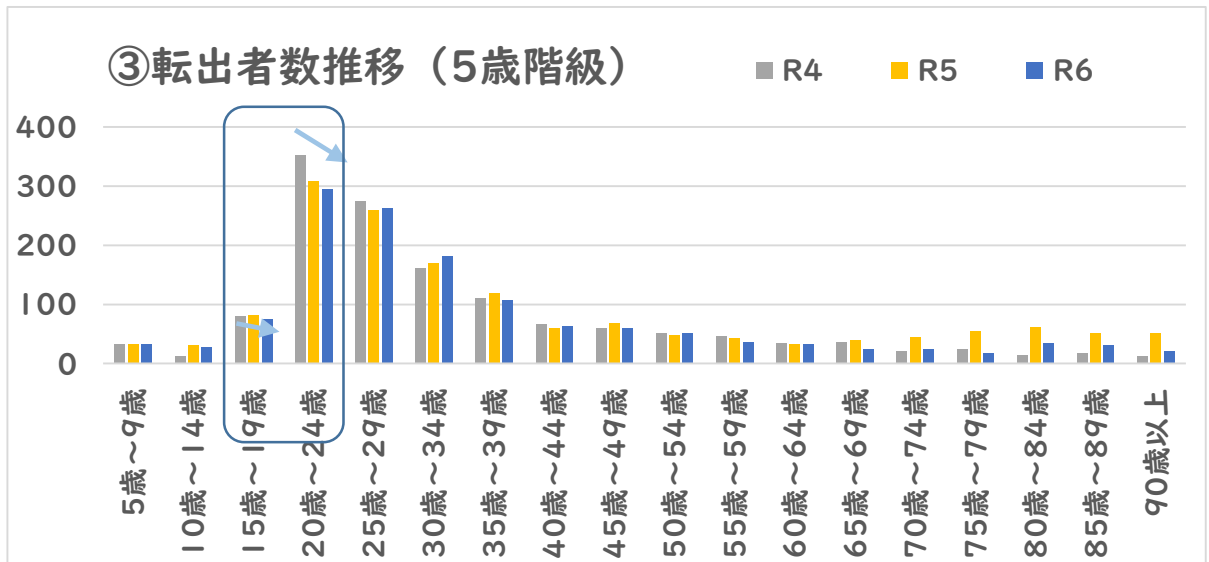
重点プロジェクト事業（人口-社会動態）



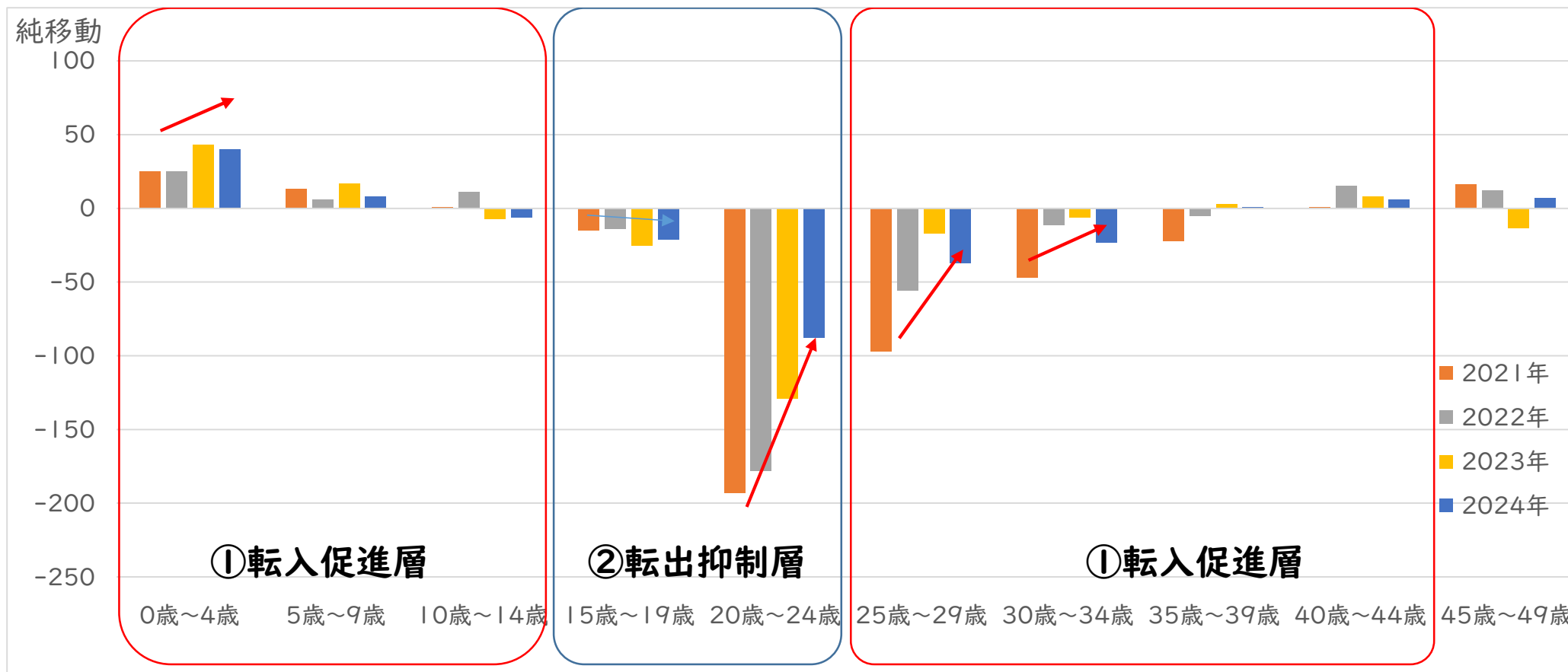
①社会動態（転出、転入、純移動数）
 転出は横ばい、転入は傾向で直近3年は1,400人を維持している。純移動数としてはR6年度で-88人と改善傾向。

②転入者数推移
 比較的若いファミリー層（0～9、20～39歳）で増加傾向、令和6年では特に0～4歳で100人を超えました。

③転出者数推移
 20～24歳の転出は減少傾向となっています。しかし、依然として20～29歳が転出が多い年代となっています。



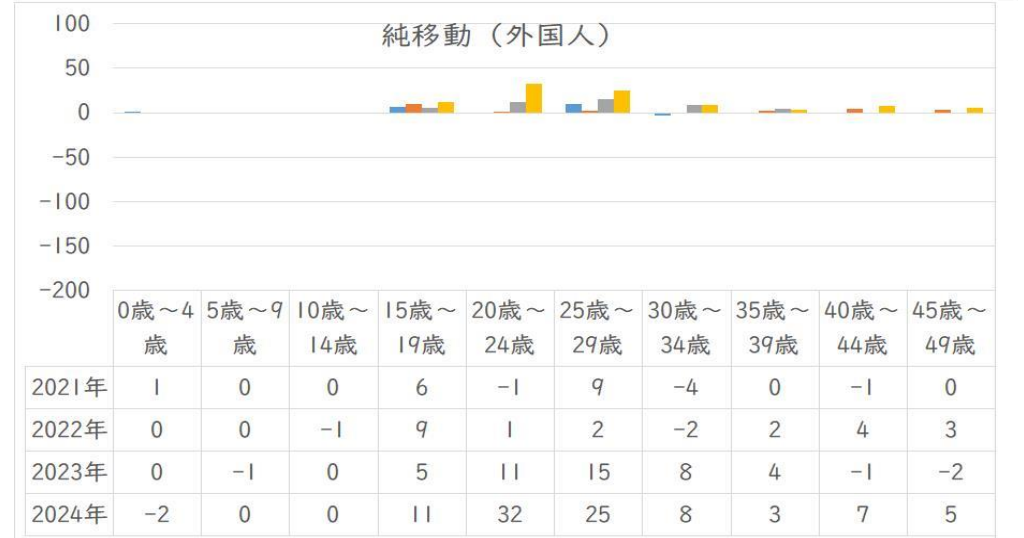
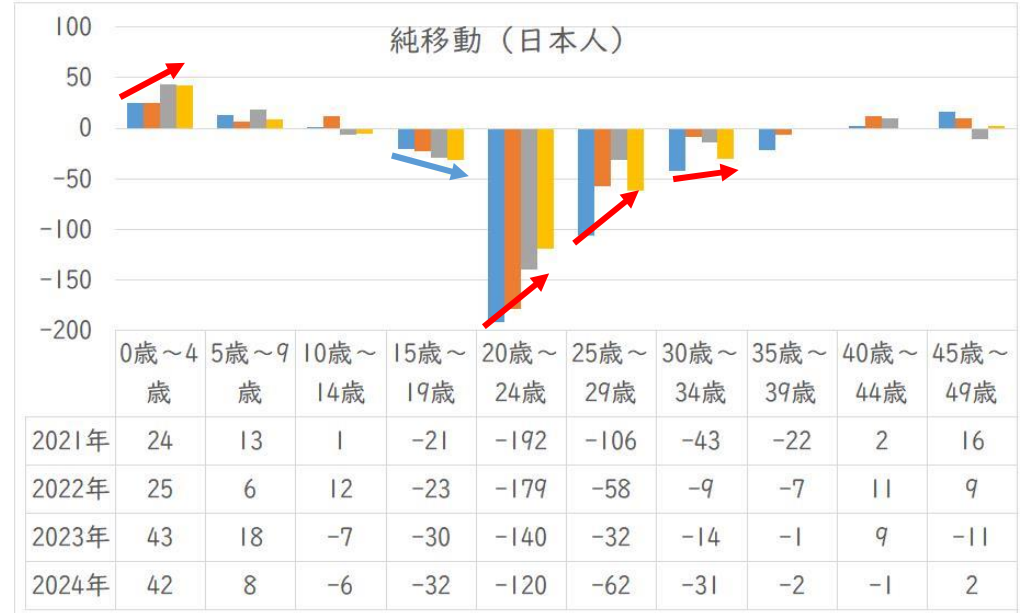
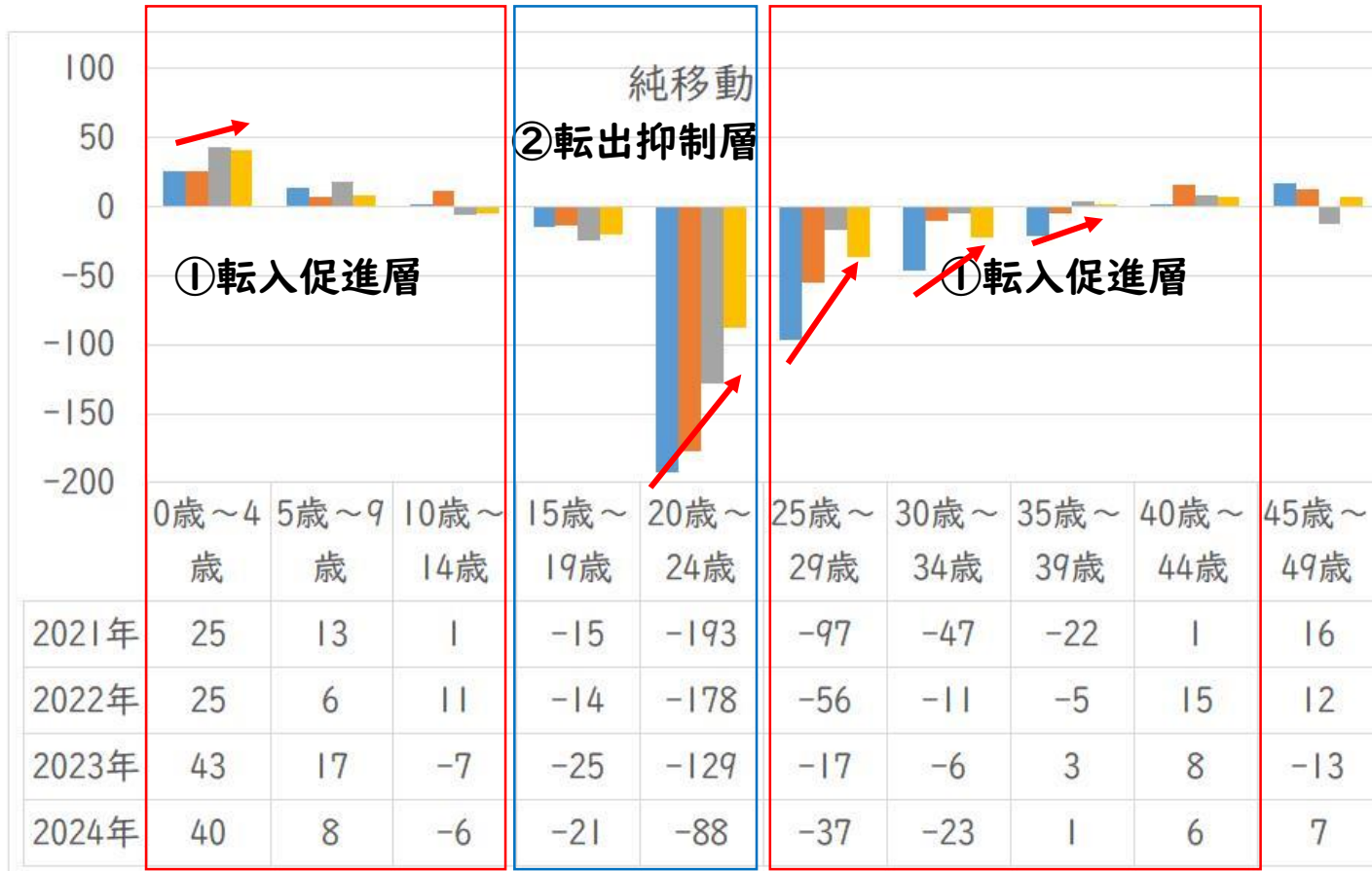
重点プロジェクト事業（人口-純移動数）



■ 純移動数

- ①転入促進層のうち0～4歳、25～34歳では改善が進み、0～14歳では人口増、25～44では移動均衡に近づいています。
- ②転出抑制層では20～24歳での転出超過は減少傾向となっています。

重点プロジェクト事業（人口-純移動数）



■純移動数

①転入促進層のうち0～4歳、25～34歳では改善が進み、0～14歳では人口増、25～44では移動均衡に近づいてきている。外国人は20～29歳で転入超過が増加しています。


②転出抑制層では20～24歳での転出超過は減少傾向となっています。

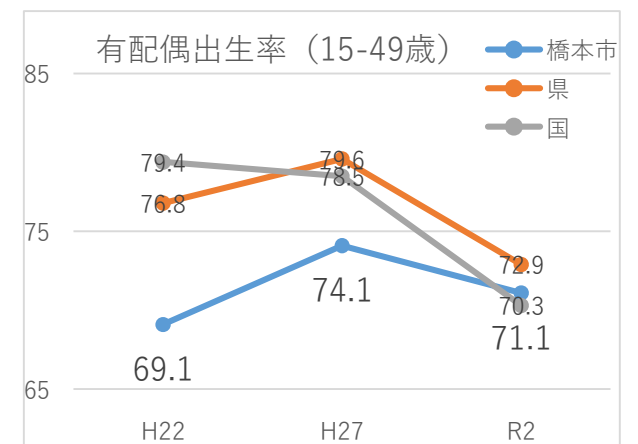
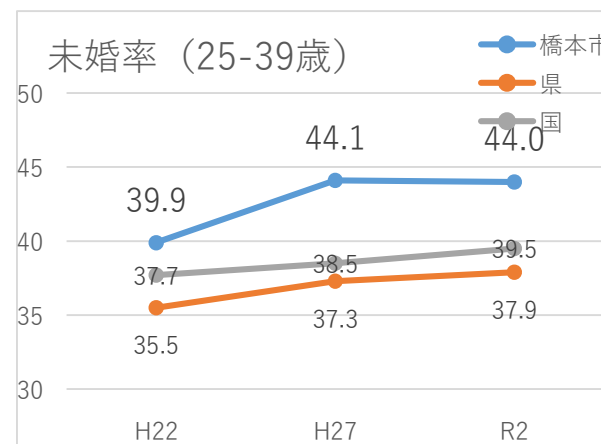
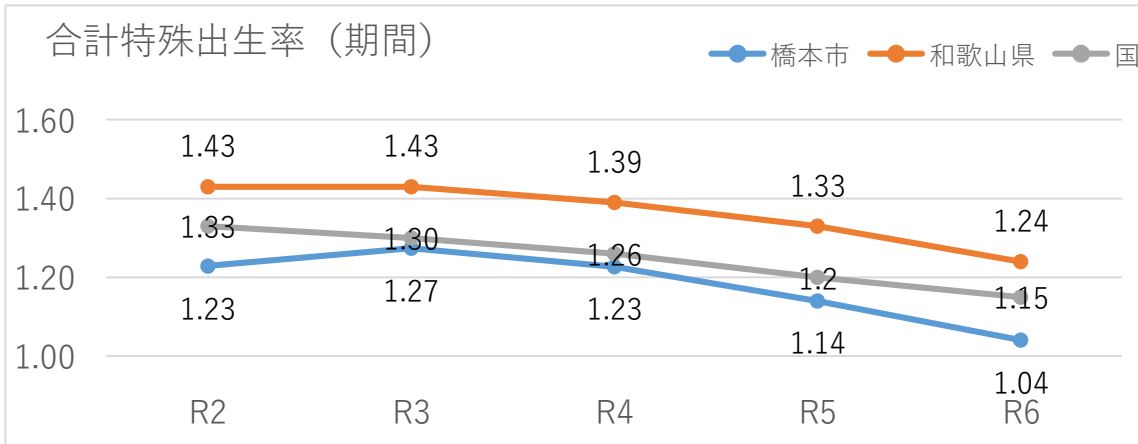
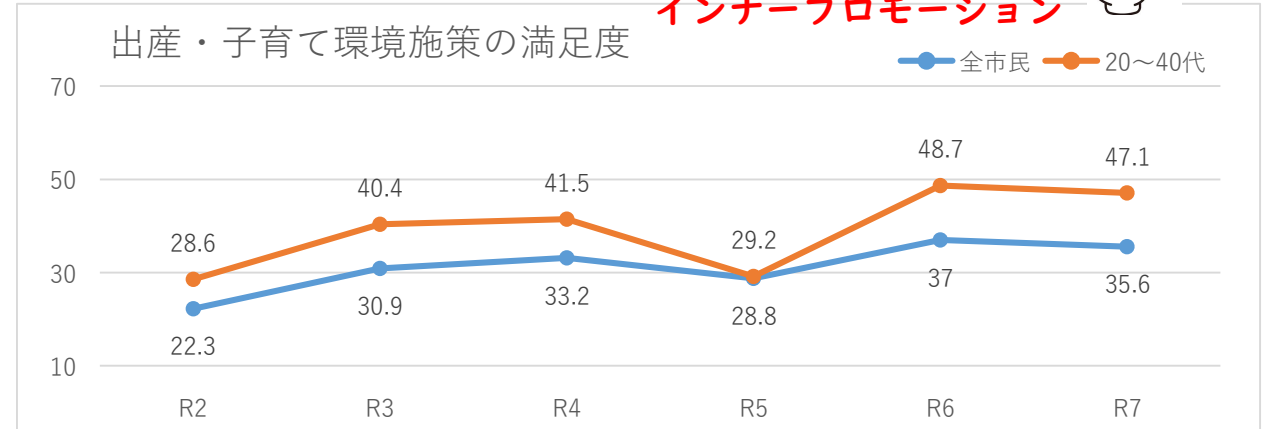
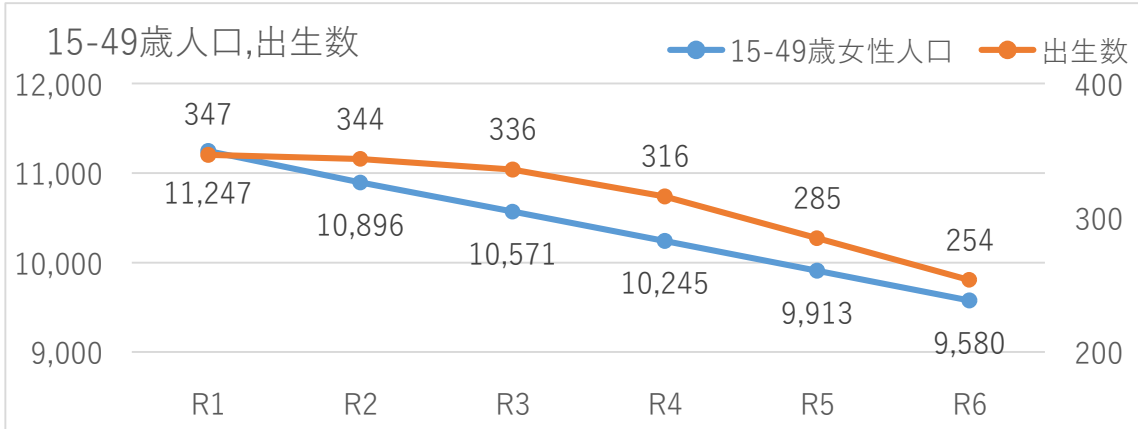
重点プロジェクト事業（評価）



①まち全体で子どもを育む（出生数の改善）

「橋本市で暮らす人が、希望する数の子どもを持つことができるまち」

安心できる出産・子育て
経済的負担軽減
インナープロモーション 



出産・子育て環境施策の満足度は上昇傾向だが、出生数は年々減少している。出生数は女性人口、有配偶率、有配偶出生率
が関係するため、生活基盤（働く場の確保）、子育て環境の充実、転入促進など引き続き取り組む必要があります。

R2未婚率:44%・1516位 → (H27:44.1%・1591位)、R2有配偶出生率↑:71.1・730位 (H27:74.1・1010位)

<主な取組>:医療費助成、学校給食無償化などの子育て家庭の経済的負担軽減、安心して子育てできる支援体制

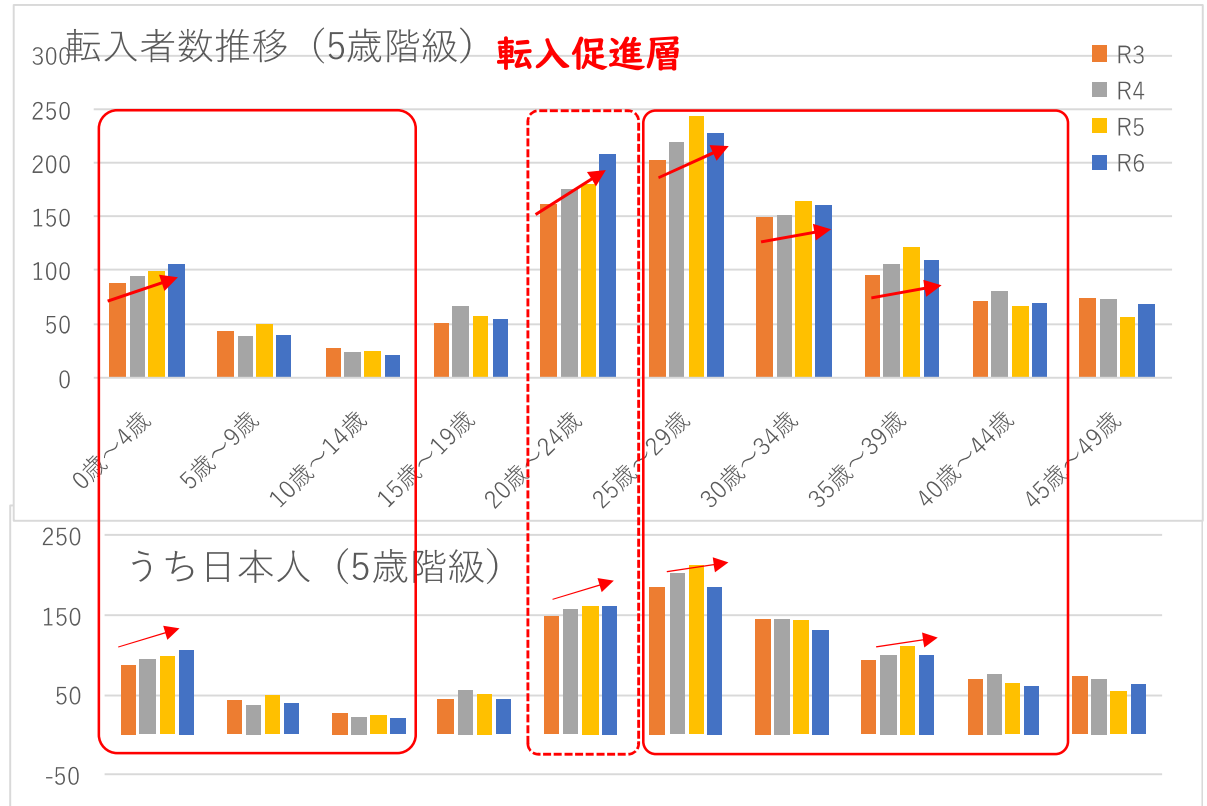
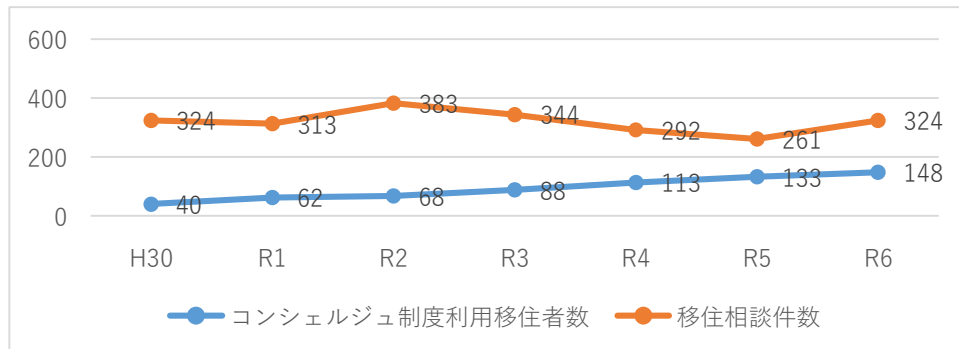
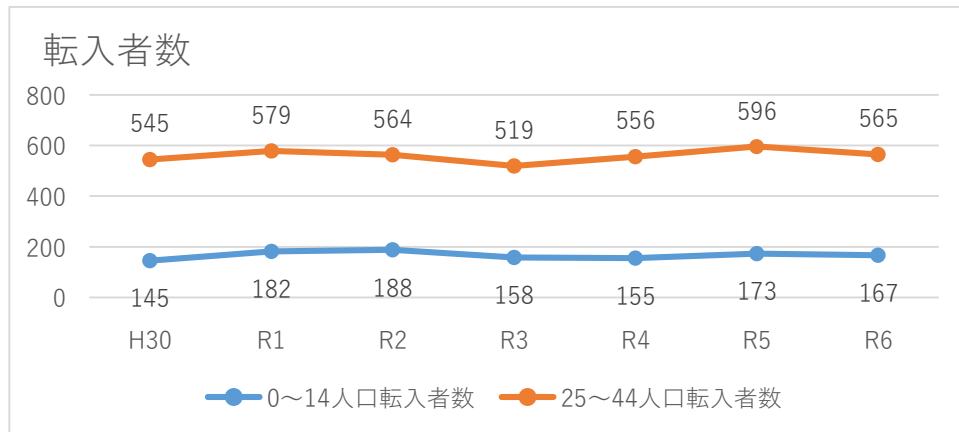
重点プロジェクト事業（評価）



②まちの魅力をみがき伝える（ファミリー層の転入促進）

～橋本市での暮らしに魅力を感じ、親子でまちに暮らす人が増える～

子育て環境
遊び・居場所
アウタープロモーション



転入促進層の転入者数は増加傾向であり、特に0～4歳の転入者が100人を超えてきた。移住相談件数やコンシェルジュ制度を利用した移住者数は増加している。子育て世代をターゲットにした施策の効果が表れてます。20～24歳も増加しており、就職等による移動が多い20代でも増加しています。（外国人の転入者も20～34歳で増加傾向）

<主な取組>UIJターン住まい支援事業（住宅取得補助、空き家関連補助）、移住コンシェルジュ事業、子育て環境整備、子育て支援の充実、シティプロモーションの推進

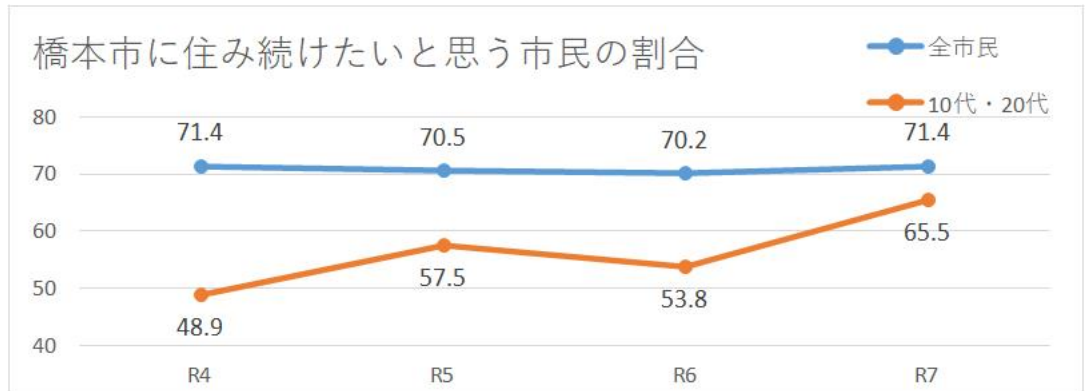
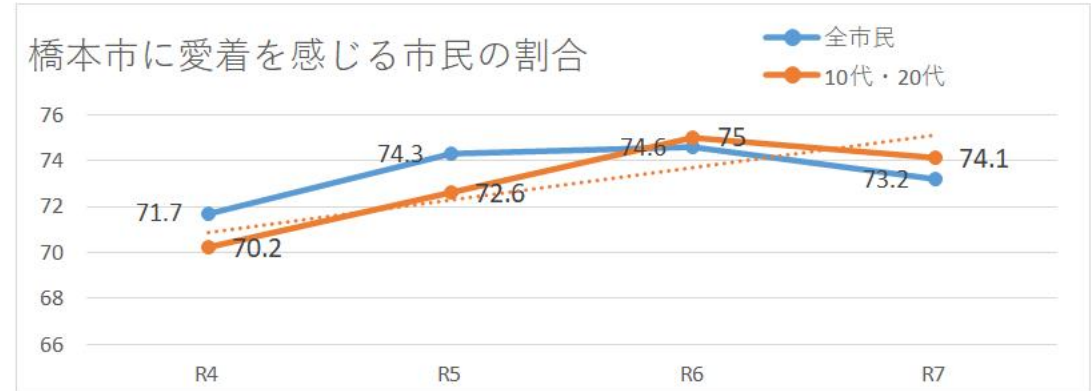
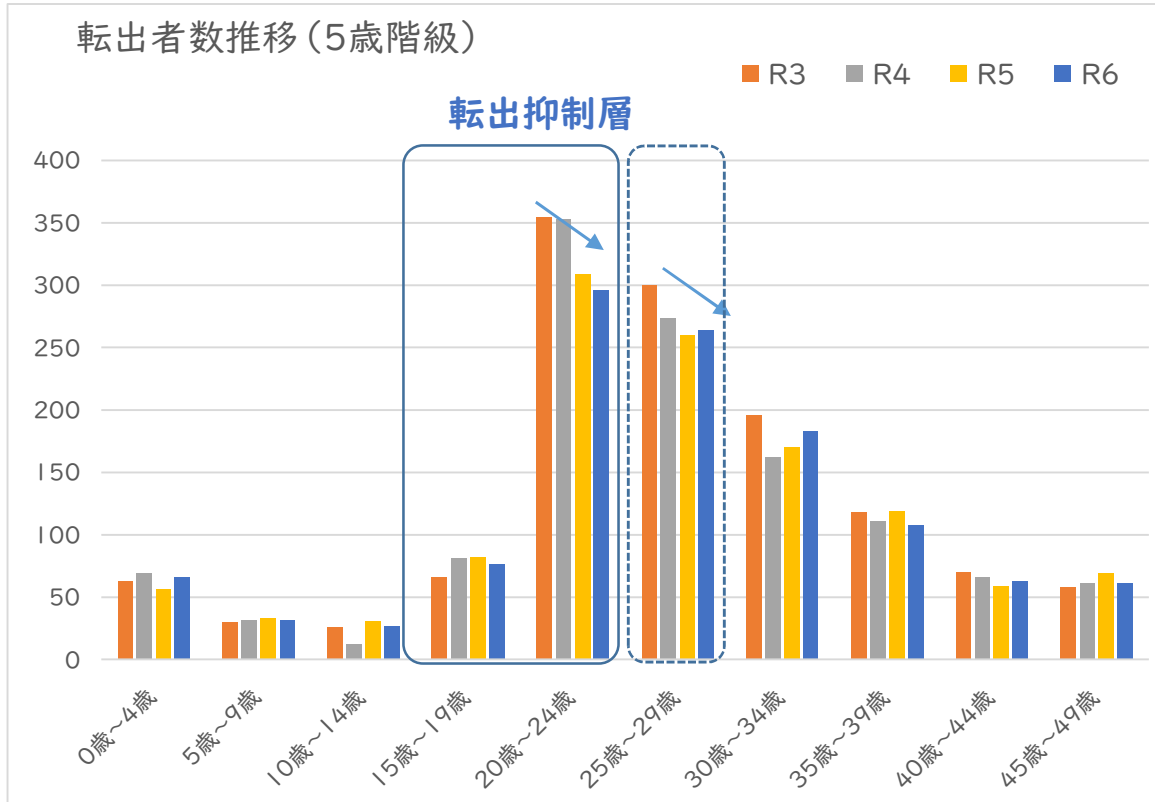
重点プロジェクト事業（評価）



③住み続けられるまちをつくる（転出超過の抑制）

～進学や就職を機とした、市外に流出する人口の減少速度を緩やかにする～

働きやすさ
産業の稼ぐ力
愛着・定住 住みやすさ



転出抑制層のうち20～24歳での転出者数が減少している。また、25～29歳の転出も減少傾向となっています。

10・20代の「橋本市に愛着を感じる市民の割合」、「住み続けたいと思う市民の割合」が改善してきています。

<主な取組>企業誘致、企業情報PR、LINE等による情報発信・インナープロモーション、未来プロジェクト、自治と協働の実践事業